

梅若会別会能 平成26年11月16日(日)

能 『安達原』

山伏のたつての願いにあばらやに入れた里女(シテ)
里女は糸車を紡ぎながら浮世のはかなさをなげきつづやくのであった。が、
「夜寒いので山に薪を取りに行くが留守のあいだ閨の内を決して見ないように」
と、かたく約束して出て行く。しかし山伏の従者(アイ狂言)が約束を破って
しまう。
そして、それから事件が起きる・・・・・・。

配役

シテ(前シテ里の女・後シテ鬼女)	松山隆之
ワキ(山伏)	福王和幸
アイ狂言(随行の能力)	山本泰太郎

あらすじ

『安達原』～あだちがはら～山伏祐慶一行が修業の途中安達原の庵に一夜の宿を頼むと、庵の主の老婆は破れ屋を恥つつ一行を中へ案内する。老婆は糸車を操りながら一行に浮世のはかなさを呟き、夜が深まると留守中寝屋を覗かぬよう言い残し薪を取りに裏山に消え去る。山伏一行は老女の言葉が気に掛り寝屋を覗くとそこで山と積まれた死骸を目にする。一行はここが噂の鬼女が棲む安達原の黒塚だと気付きあわてて庵を逃げ出す。逃げる山伏一行に先刻の老婆が鬼女の姿で追い迫る。祐慶一行は数珠を手に必死に祈り続け鬼女と戦う。すると鬼女は弱りはて、恨み声を残して一行の前より消え去る。